

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年9月
福岡市教育委員会

目次

1	調査概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の対象とする児童生徒	1
(3)	調査事項及び手法	1
(4)	調査の方式	1
(5)	調査日	1
(6)	集計児童生徒・学校数	2
2	調査結果と考察	3
(1)	調査結果と考察の考え方	3
(2)	教科に関する調査結果の概要	3
(3)	小学校国語の調査結果について	6
(4)	小学校算数の調査結果について	8
(5)	中学校国語の調査結果について	10
(6)	中学校数学の調査結果について	12
3	児童生徒質問紙及び学校質問紙調査の結果について	14
(1)	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	14
(2)	個別最適な学び・協働的な学び	16
(3)	ICT を活用した学習状況	17
(4)	規範意識・自己有用感等	18
4	成果と課題	19
5	取組の方向性	19
(1)	各学校での取組	19
(2)	教育委員会としての取組	19

1 調査概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る
- 学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象とする児童生徒

- 小学校調査
 - ・ 小学校第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年
- 中学校調査
 - ・ 中学校第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

② 学校に対する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査

教科調査 P B T

質問調査 C B T

(5) 調査日

教科に関する調査	令和 6 年 4 月 1 8 日（木）
学校質問調査	令和 6 年 4 月 1 日（月）～ 8 日（月）
児童生徒質問調査（中学校）	令和 6 年 4 月 1 0 日（水）～ 1 8 日（木）
（小学校）	令和 6 年 4 月 1 9 日（金）～ 3 0 日（火）

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

- ・児童生徒に対する調査について、令和6年4月18日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計
- ・後日実施の場合、採点及び調査結果の提供は行われるが、全体集計からは除外
- ・学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計

②集計児童生徒数（4月18日に調査を実施した児童生徒数）

○小学校調査

- | | |
|--------|----------|
| ・国語 | 12,895 人 |
| ・算数 | 12,902 人 |
| ・児童質問紙 | 13,009 人 |

○中学校調査

- | | |
|--------|----------|
| ・国語 | 11,691 人 |
| ・数学 | 11,695 人 |
| ・生徒質問紙 | 11,580 人 |

③集計学校数

○小学校調査

- | | |
|---------|-------|
| ・小学校 | 146 校 |
| ・特別支援学校 | 0 校 |

○中学校調査

- | | |
|---------|---------------------|
| ・中学校 | 69 校（きぼう中学校が対象生徒なし） |
| ・特別支援学校 | 1 校 |

2 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、福岡市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、福岡市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問紙調査や学校に対する質問紙調査からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果の概要

①教科に関する調査結果の概況

(%)

小学校調査		国語	算数
福岡市(市立)	平均正答率	6 9	6 4
福岡県(公立)	平均正答率	6 9	6 4
全国 (公立)	平均正答率	6 7 . 7	6 3 . 4

○国語は、全国平均を上回る。

○算数は、全国平均と同程度である。

(%)

中学校調査		国語	数学
福岡市(市立)	平均正答率	5 8	5 4
福岡県(公立)	平均正答率	5 8	5 1
全国 (公立)	平均正答率	5 8 . 1	5 2 . 5

○国語は、全国平均と同程度である。

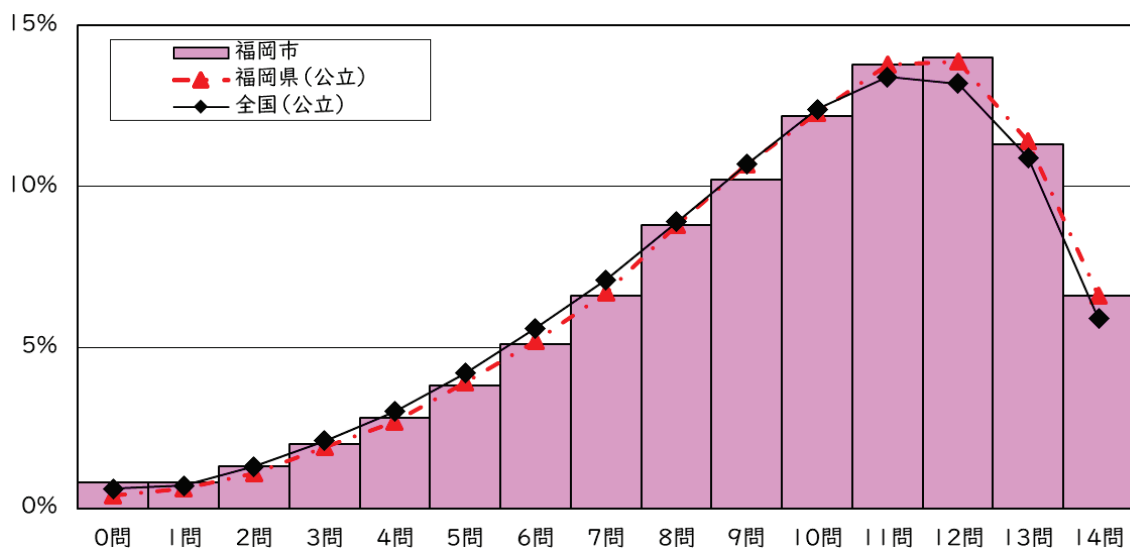
○数学は、全国平均を上回る。

②教科ごとの正答数分布

【小学校】

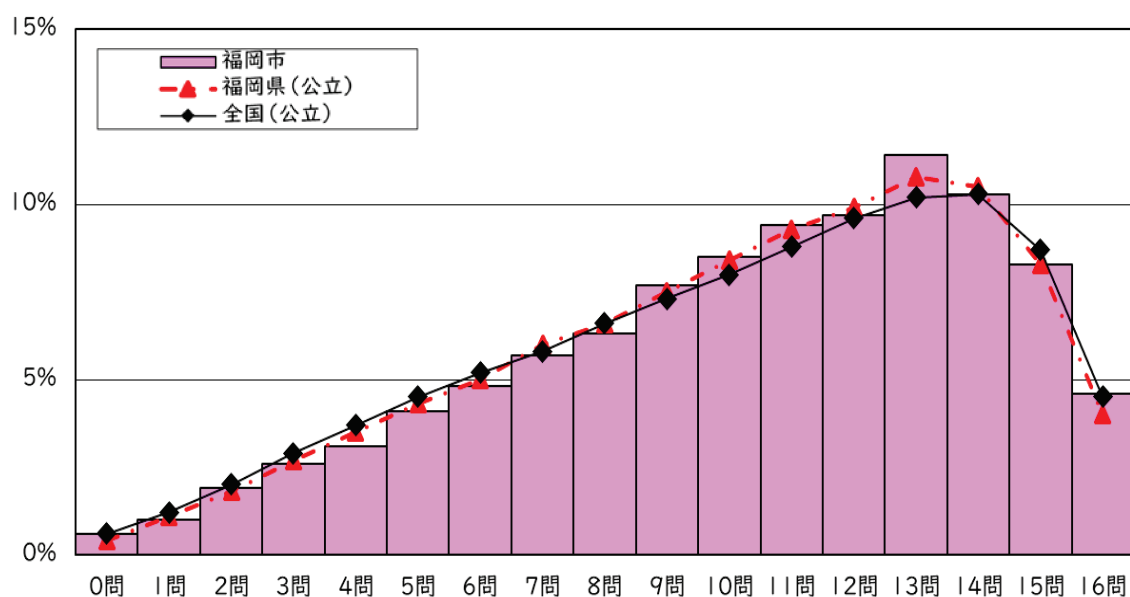
国語

	児童数	平均正答数		平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	12,895	9.6	/ 14	69	10.0	3.1
福岡県(公立)	42,540	9.7	/ 14	69	10.0	3.0
全国(公立)	947,364	9.5	/ 14	67.7	10.0	3.1



算数

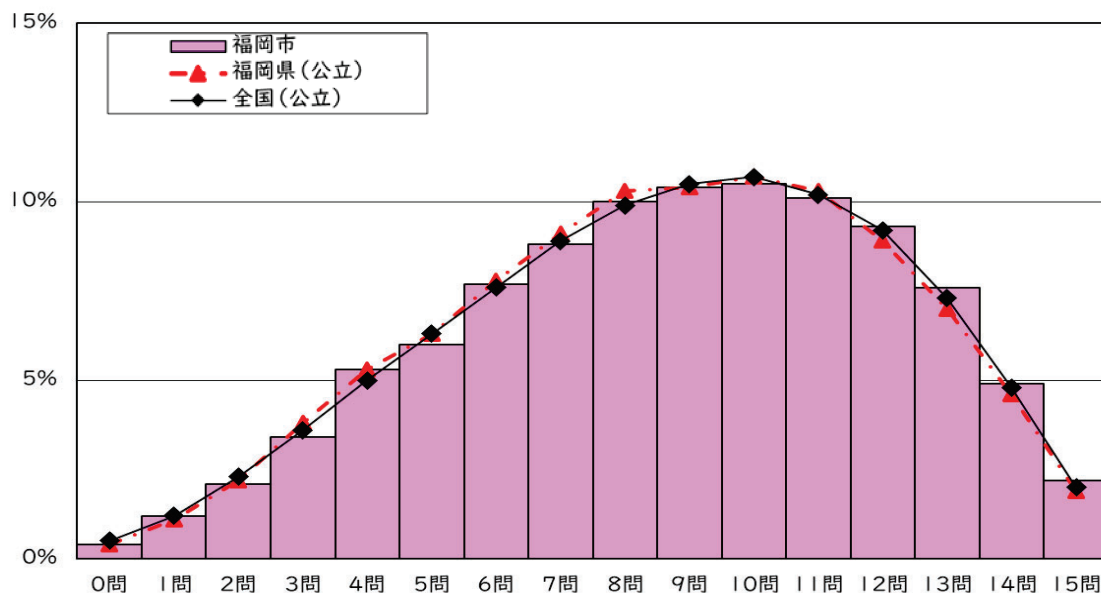
	児童数	平均正答数		平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	12,902	10.3	/ 16	64	11.0	3.8
福岡県(公立)	42,553	10.2	/ 16	64	11.0	3.8
全国(公立)	947,579	10.1	/ 16	63.4	11.0	3.9



【中学校】

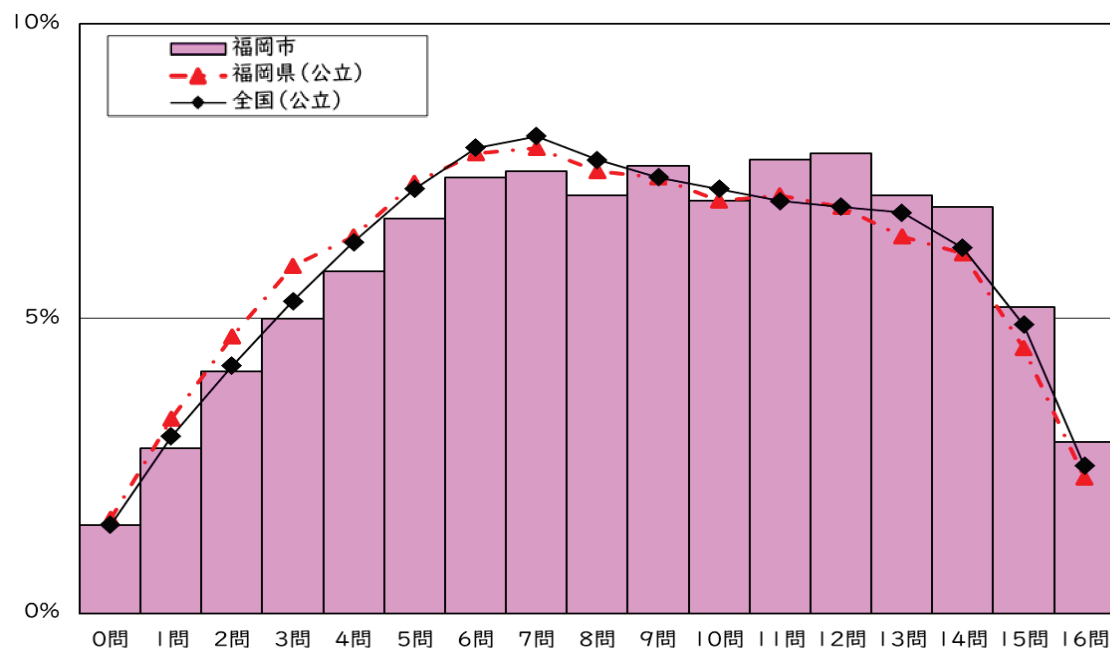
国語

	生徒数	平均正答数		平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	11,691	8.8	/ 15	58	9.0	3.4
福岡県(公立)	39,558	8.7	/ 15	58	9.0	3.3
全国(公立)	875,574	8.7	/ 15	58.1	9.0	3.4



数学

	生徒数	平均正答数		平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡市	11,695	8.6	/ 16	54	9.0	4.2
福岡県(公立)	39,577	8.2	/ 16	51	8.0	4.2
全国(公立)	875,952	8.4	/ 16	52.5	8.0	4.1



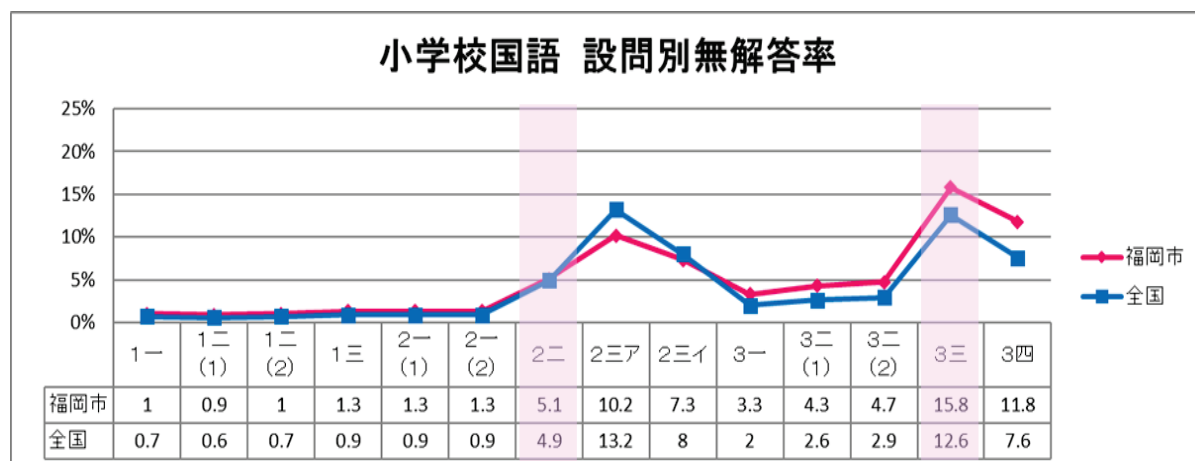
(3) 小学校国語の調査結果について

①内容及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
				福岡市	福岡県(公立)	全国(公立)
全体			14	69.0	69	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	66.3	66.0	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	87.9	87.5	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	72.0	75.5	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.4	60.9	59.8
		B 書くこと	2	70.6	70.8	68.4
		C 読むこと	3	68.9	71.7	70.7
評価の観点		知識・技能	6	70.8	71.2	69.8
		思考・判断・表現	8	66.9	67.5	66.0
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	10	70.7	70.6	69.9
		短答式	2	63.8	62.4	59.7
		記述式	2	63.0	67.8	64.6

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
2ー(2)	【高山さんのメモ】の表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	87.9	86.9	+1.0
2ー(1)	高山さんが文章を書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	82.7	81.2	+2.4

◆問題番号2ー(2)は、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」ことが、(1)は、「情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
2 三 ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き表す（きょうぎ）	50.5	43.4	+7.1
1 二 (2)	オンライン交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	55.4	52.9	+2.5

④

せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤

説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んでことがない分野の本を読むことができました。

⑥

よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦

そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出版されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

1 二 (2)

和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

解答類型	番号	福岡市	全国
1：誤答	1	26.3	27.7
2：正答	2	55.4	52.9
3：誤答	3	2.4	3.0
4：誤答	4	14.5	15.4

〔第5学年及び第6学年〕
思考・判断・表現
A 話すこと・聞くこと ア

課題

目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意し、自分の考えが伝わるよう表現を工夫すること

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

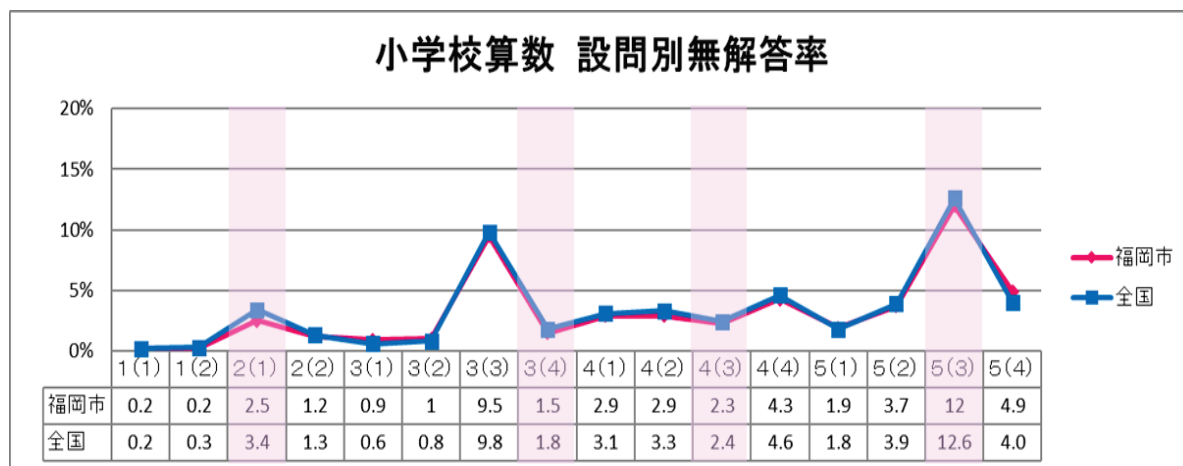
(4) 小学校算数の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類	区分	対象問題 数(問)	平均正答率(%)		
			福岡市	福岡県(公立)	全国(公立)
全体		16	64.0	64	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	67.4	67.1	66.0
	B 図形	4	66.9	66.3	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	52.0	51.1	51.7
	D データの活用	4	63.2	61.9	61.8
評価の観点	知識・技能	9	73.5	73.3	72.8
	思考・判断・表現	7	52.6	51.4	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	76.4	75.8	75.3
	短答式	7	62.5	62.0	62.0
	記述式	4	52.4	51.7	51.0

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
1 (2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	89.1	88.5	+0.6
3 (1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	86.8	85.5	+1.3

◆問題番号 **1** (2) は、「数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる」、**3** (1) は、「直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

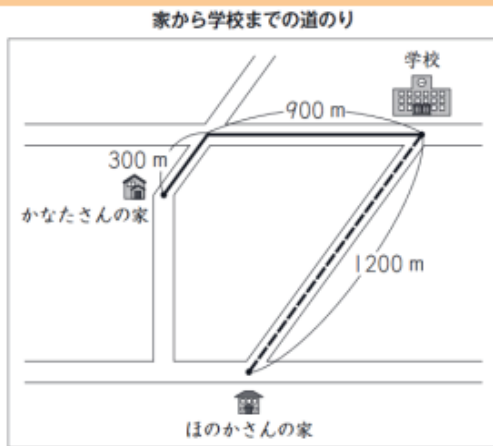
問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3 (3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	34.8	36.5	-1.7
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	30.5	31.0	-0.5

4 (3) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること

(道のりと時間と速さ) 変化と関係

[第5学年]

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。



① かなたさん

② ほのかさん

【正答例】

【番号】1

【わけ】かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ mで、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。

家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんさんのどちらが速いですか。

下の ① と ② から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

〔正答の条件〕

A

- ①歩いた道のりが等しいこと
②かなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間より短いこと

B

- ①かなたさんの歩く速さを表す数や式、言葉
②ほのかさんの歩く速さを表す数や式、言葉

道が曲がっていることやまっすぐであること
解答類型9、19…7.7%

課題 数学的活動の充実
場面に応じた速さの比べ方の考察

解答類型	番号	わけ	福岡市
1	1	A①②	20.0
2		A①	29.9
3		A②	2.9
4		A②×	3.6
5		B①②	10.6
6		B①	0.1
7		B②	0.6
8		B①×②×	0.5
9		道のり	1.2
11	2	A①②	0.2
12		A①	2.9
15		B①②	2.9
16		B①	0.1
17		B②	0.9
19		道のり	6.5
99	上記以外		1.0
0	無解答		2.3

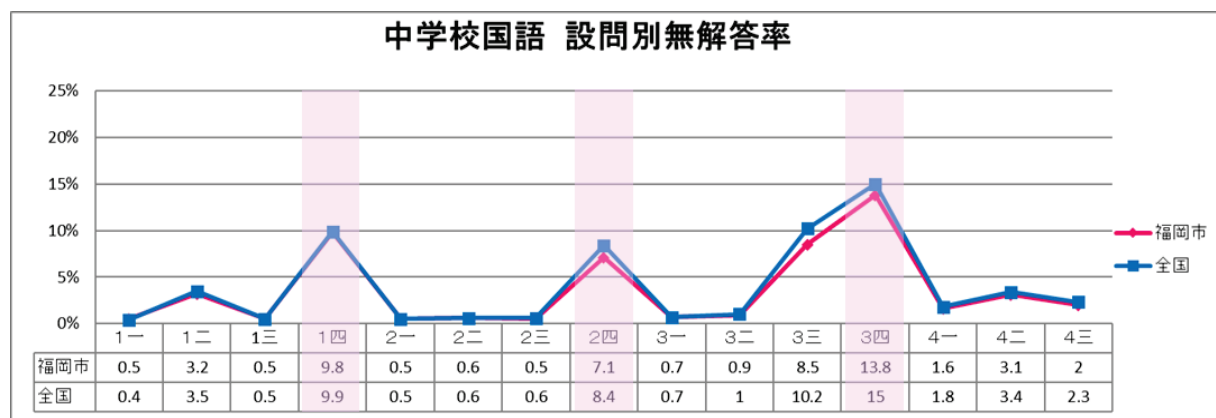
(5) 中学校国語の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類		区分	対象問題 数(問)	平均正答率(%)		
				福岡市	福岡県(公立)	全国(公立)
全体			15	58.0	58	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	61.5	59.9	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	59.7	58.9	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	75.2	75.9	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	60.3	58.8	58.8
		B 書くこと	2	64.2	65.0	65.3
		C 読むこと	4	47.2	46.6	47.9
評価の観点		知識・技能	6	63.2	62.3	62.0
		思考・判断・表現	9	55.3	54.7	55.4
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	61.0	60.4	61.0
		短答式	3	63.5	62.1	61.8
		記述式	3	45.8	45.4	45.5

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	78.9	81.4	-2.5
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	75.2	75.6	-0.4

◆問題番号3 (一) は「目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」こと、4 (三) は「行書の特徴を理解しているかどうかをみる」ことが出題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
2 四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	41.6	42.6	-1.0
2 一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	35.0	36.3	-1.3

- 2 一 「図さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。
- ① 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- ② 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結びつけて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

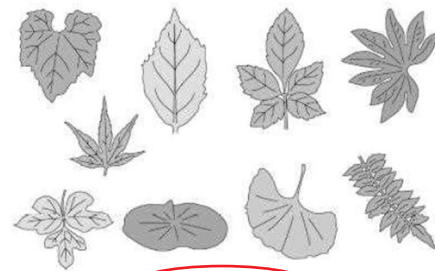


図 さまざまな形の葉

一口に植物といっても、世の中には多種多様なものがあります。木でも草でもよいのですが、そのなかから好きなものを片端か、思い浮かべて、それぞれの葉の形を一言で表してみてください。どのような言葉があがってくるでしょうか。

「楕円形の」「薄い」「先のとがった」「平べったい」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「厚ぼったい」「針のうな」「手のひらのような」……。それこそさまざまな形容があるでしょう（図）。

解答類型	番号	福岡市	全国
1	1 〇 2 〇	35.0	36.3
2	1 〇 2 ×	30.9	28.1
3	1 × 2 〇	24.3	25.6
99	上記以外	9.2	9.5
無解答		0.5	0.5

〔第2学年〕

思考・判断・表現

C 読むこと ウ〈精査・解釈〉

課題

2 一 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて解釈することに課題がある。

「内容を解釈する」ためには、それぞれの部分とどの部分とが関連しているのかを確認

→・書き手の伝えたい内容をより正確に読み取る。

→・その結果どのような効果が生まれているのかを考える。

2 四 目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。

→・文章を読んで内容を理解したり、理解したことを伝えたりするには、目的に応じて必要な情報に着目して要約することが必要。

→・要約する目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なるということを理解し、適切に要約することができるように指導する。

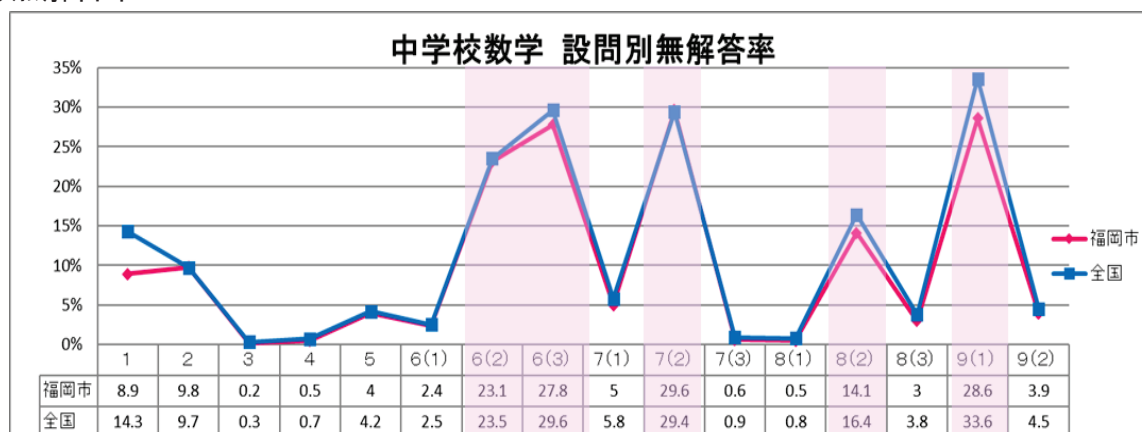
(6) 中学校数学の調査結果について

①領域及び観点ごとの調査結果

※ 全国（公立）を上回る 全国（公立）を下回る

分類	区分	対象問題 数(問)	平均正答率(%)		
			福岡市	福岡県(公立)	全国(公立)
全体		16	54.0	51	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	53.5	50.4	51.1
	B 図形	3	39.6	37.0	40.3
	C 関数	4	60.0	58.9	60.7
	D データの活用	4	59.6	56.3	55.5
評価の観点	知識・技能	11	64.5	61.8	63.1
	思考・判断・表現	5	31.1	28.7	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	59.3	57.6	58.5
	短答式	6	68.8	65.4	67.0
	記述式	5	31.1	28.7	29.3

②無解答率



※薄ピンクの網掛け記述式の問題

③平均正答率が高かった問題

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
6 (1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	89.9	90.2	-0.3
8 (1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値を表すものを選ぶ	81.8	83.4	-1.6

◆問題番号[6] (1) は「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる」ことが、[8] (1) は「二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる」ことが問題の趣旨である。

④課題がみられた問題とその分析

問題番号	問題の概要	福岡市	全国	差
9 (1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	24.8	25.8	-1.0
8 (2)	18 Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	16.9	17.1	-0.2

数学 8 日常的な事象における問題について、関数関係に着目し構想を立て解決すること（ストーブ）

- 【8】 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

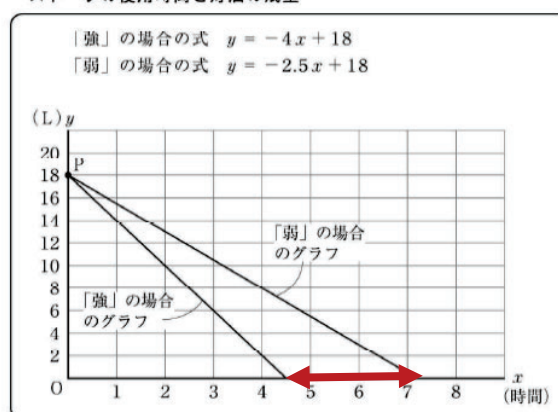
説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) ストーブの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合のグラフは、どちらも点Pで y 軸と交わっています。点Pの y 座標の値は、何を表していますか。下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア ストーブを使用し始めるときの灯油の残量
イ ストーブを使用し始めるときの時間
ウ 「強」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量
エ 「弱」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

課題

問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明すること

- (2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

式

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

グラフ

解答 類型 の一 部	アを選択	正答条件○	10.5%
		正答条件×	34.0%
	イを選択	正答条件○	6.4%
		正答条件×	34.3%

(正答例)

<アを選択した場合>

- ・「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。

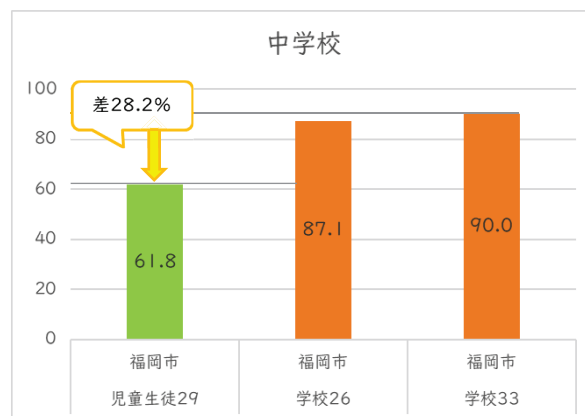
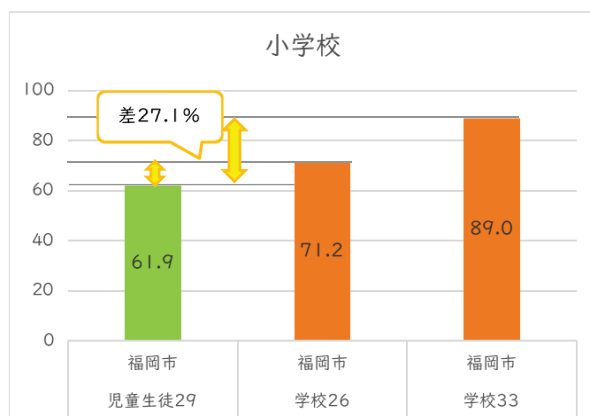
<イを選択した場合>

- ・「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が0のときの x の値の差を求める
- ・「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が0のときの2点間の距離を読み取る

3 児童生徒質問紙及び学校質問紙調査の結果について

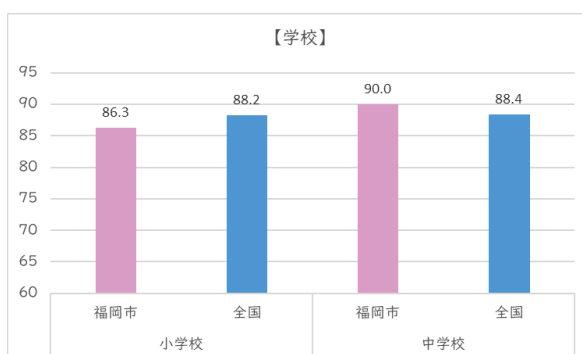
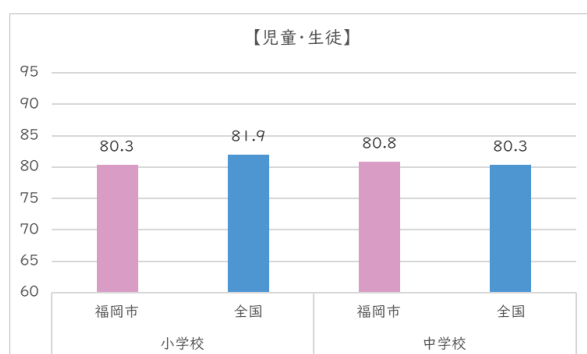
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

児童 29 生徒 29	5年生まで（1、2年生とき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
学校 26	調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。
学校 33	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



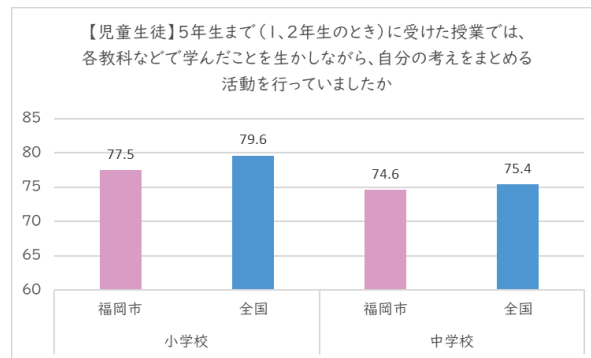
- ◆学校質問紙 26 において、児童生徒質問紙 29 との差が、小学校では 9.3%、中学校では、25.3%ある。また、学校質問紙 33 は、小学校 27.1%、中学校 28.2%の差がある。
- ◆学校質問紙 33 は、全国（小 89.3%、中 85.1%）と同程度もしくは上回る結果となっており、課題設定や言語活動を取り入れた授業改善を各学校が実施していることがわかる。

児童 30 生徒 30	5年生まで（1、2年生とき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
学校 25	調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



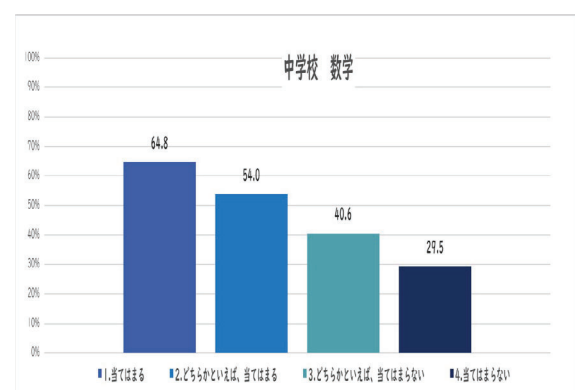
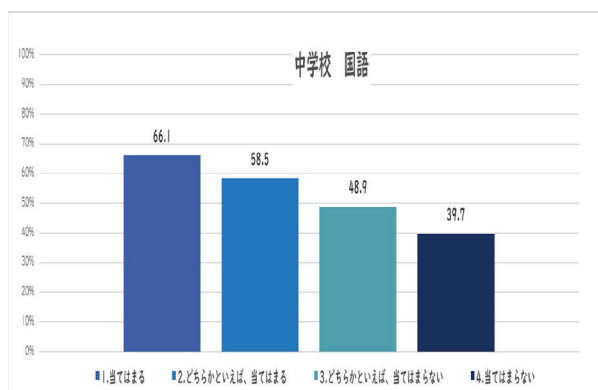
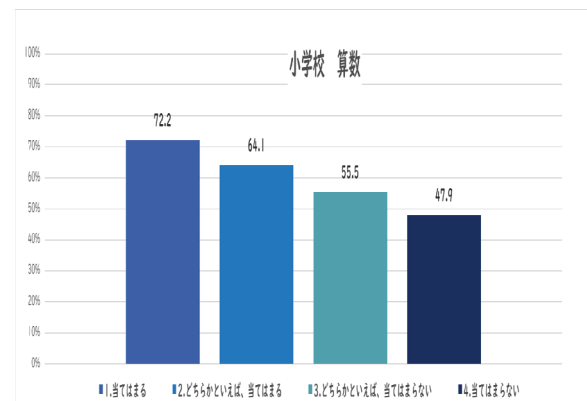
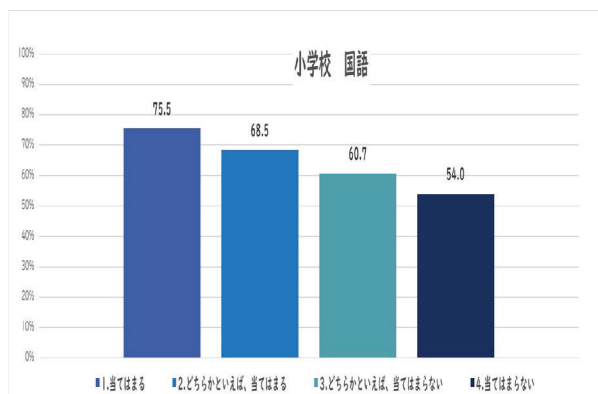
児童 31
生徒 31

5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



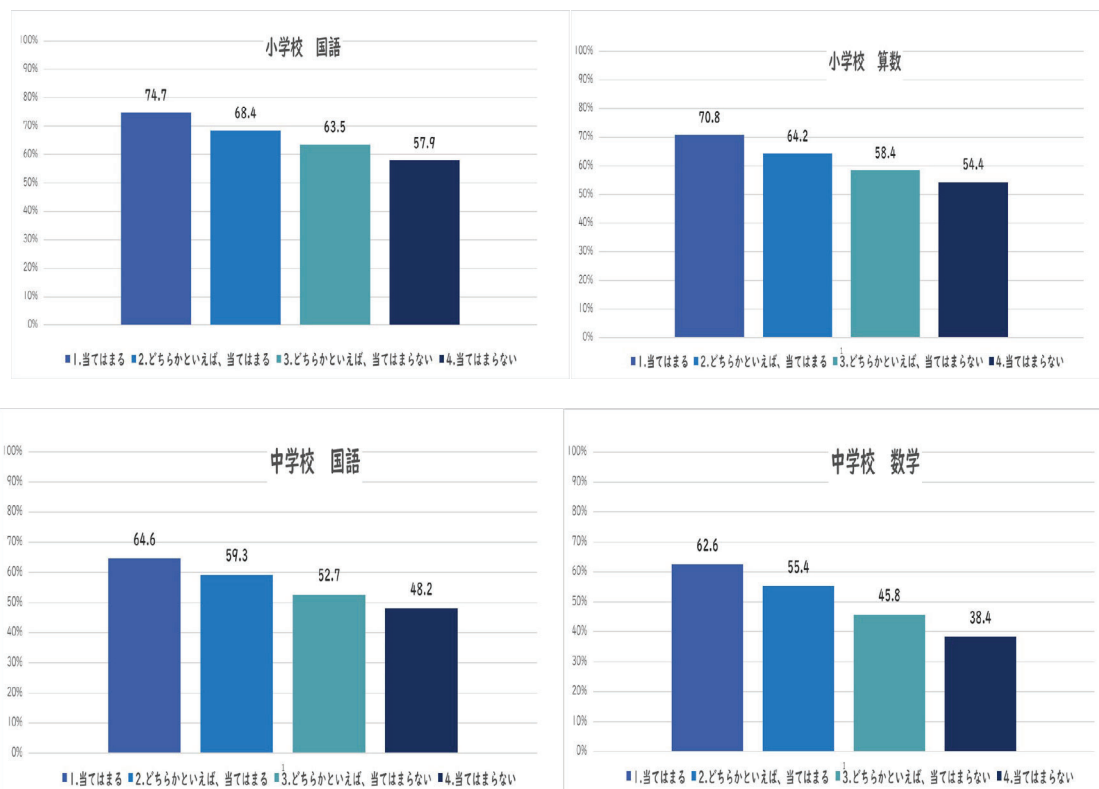
◆ 「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」、「学んだことを生かしながら考えをまとめたか」の肯定回答率は、全国と同程度か、もしくは上回る結果となっている。

【児童生徒 30 の選択肢ごとの教科の平均正答率】



◆ 小中いずれの教科においても、「課題解決に向けて自分からとりくんだ」に肯定回答しているグループの平均正答率が高い。

【児童生徒 31 の選択肢ごとの教科の平均正答率】



◆ 小中いずれの教科においても、「学んだことを生かしながら考えをまとめたか」に肯定回答しているグループの平均正答率が高い。

(2) 個別最適な学び・協働的な学び

福岡市の「個別最適な学び」×「協働的な学び」×「各教科の正答率」の関係

児童 32 生徒 32	5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
児童 37 生徒 37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

個○…32に肯定回答、個×…32に否定回答、協○…37に肯定回答、協×…37に否定回答

小 国語	個○	個×
協○	70.1	64.7
協×	64.7	58.8

小 算数	個○	個×
協○	65.9	59.5
協×	63.0	53.9

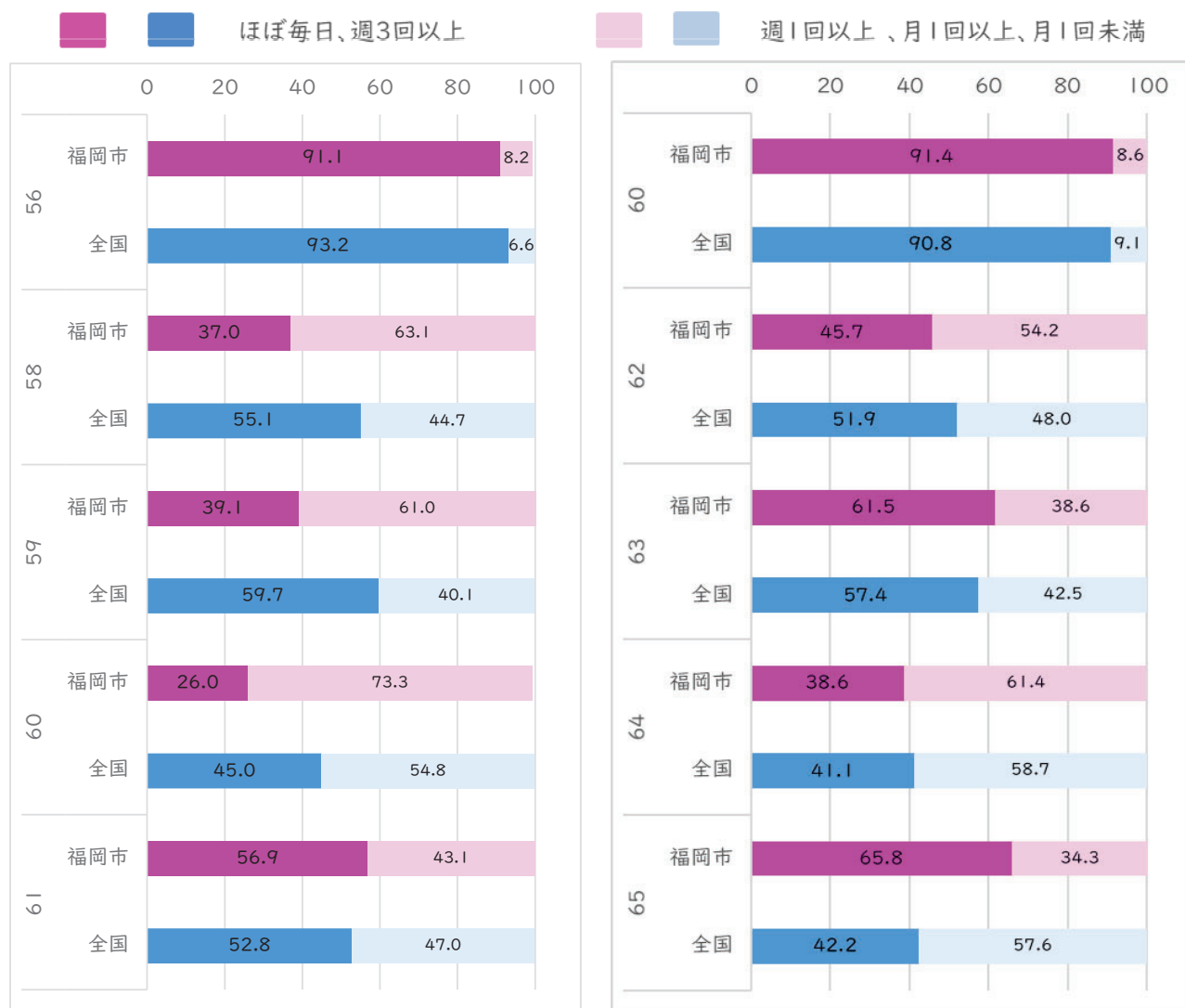
中 国語	個○	個×
協○	60.3	54.4
協×	57.4	46.5

中 数学	個○	個×
協○	56.8	47.2
協×	51.8	38.3

◆ 小中いずれの教科においても、**個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○、協○）**の正答率が、他のグループより高い。

(3) ICT を活用した学習状況

小 56 中 60	前年度までに、児童・生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか
小 58 中 62	児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか
小 59 中 63	教職員と児童・生徒がやりとりする場面では、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか
小 60 中 64	児童・生徒同士がやりとりする場面では、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか
小 61 中 65	児童・生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



- ◆ 小 56、中 60「ほぼ毎日」、「週3回以上」と回答している割合が全国平均と同程度である。
- ◆ しかし、小 58、59、60、中 62、63、64 からわかるように、考えをまとめ、発表・表現する場面、やり取りする場面での ICT 活用頻度が低い。
- ※ 文部科学省は、「授業での ICT の活用頻度」と「主体的・対話的で深い学び」との関係について、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど ICT 機器の活用頻度が高く、教科の正答率が高い傾向にあると述べている。

(4) 規範意識・自己有用感等

経年変化の略記

- ・ 前回調査 5 ポイント以上増加（減少）している場合

増加 ↑ 減少 ↓

- ・ H31 の調査（項目がない場合は一番古い年度の調査） 5 ポイント以上 増加（減少）している場合 増加 ↑ 減少 ↓

(規範意識)

○12<12>人が困っているときは、進んで助けていますか。		
	福岡市	全国
小	92.9 ↑	92.7
中	90.6	90.1

○13<13>いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか		
小	96.5	96.7
中	95.7	95.7

○15<15>人の役に立つ人間になりたいと思いますか		
小	96.4	95.9
中	96.2	95.2

(自己有用感等)

○9<9>自分には、よいところがあると思いますか		
	福岡市	全国
小	85.5	84.1
中	86.5 ↑	83.3

○10<10>先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか		
小	90.3	89.9
中	90.5 ↑	90.4

○11<11>将来の夢や目標を持っていますか		
小	83.0	82.4
中	70.4	66.3

○16<16>学校に行くのは楽しいと思いますか		
小	86.1	84.8
中	86.4	83.8

○17<17>自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか		
小	76.1 ↑	75.8
中	78.5	76.2

○18<18>友達関係に満足していますか		
小	90.5	91.1
中	90.6	90.1

○19<19>普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか		
小	91.5	91.7
中	90.8	89.8

○25<25>地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか		
小	86.3 ↑	83.5
中	79.4 ↑	76.1

4 成果と課題

- 教科に関する調査においては、昨年度の課題であった無解答率が全体で減少。
日々の授業や生活の中で、困難なことにも粘り強く取り組むこと、自分の力を出し切ることなどを意識づけることができた。
- 「学校は楽しい」に関しては、H26年度から過去最高の肯定回答率となる。「当てはまる」の回答率も全国を上回る。
- 社会性の基礎となる「自己有用感」に関する質問に対する肯定回答率が高い。児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答や各教科の正答率との間には相関が見られると述べている。
- 福岡市全体として、学校質問紙結果から、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校が多いことがわかる。
- 児童生徒質問紙の「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」等の主体的・対話的で深い学びに関する項目の肯定回答率は、全国と同程度か下回る結果となっている。
- 教師と児童生徒の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の捉えに差がある。
捉えの差の要因や育成する資質・能力（何ができるようになるか）に目を向け、授業改善する必要がある。

5 取組の方向性

(1) 各学校での取組

- ◆自校の学力・学習状況調査の成果と課題の分析
…全職員、全学年、全教科で、課題の共有をし、学習指導要領で育成を目指す資質・能力の再確認した上で、「何ができるようになるか」を出発点にした教科らしい学びの授業改善を行う。
- ◆学習者主体の授業づくりのための校内研修の実施

(2) 教育委員会としての取組

- ◆教育委員会と学校が一体となり、指導主事訪問等で各学校の実態にあった指導助言を行う。
- ◆考えをまとめ、発表・表現する場面や意見交流する場面等において、手段としてのICT活用の在り方を明らかにし、全学校に周知し、好事例を創出する。
- ◆非認知能力を育成する視点をふまえ、自立した学習者を育てる新たな学びを全市に展開する。